

2022 年度 秋冬学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

授業改善アンケート調査結果

1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016年にグローバル30人間科学コース（以下、G30）、2017年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。2020-2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から授業がオンライン化したことをうけ、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度春夏学期からは、すべてマークシート方式に変更した。

2022年度秋冬学期アンケート回答期間：2023年1月6日（金）～2月8日（水）

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、71.8%であった（2021年度秋冬学期20.6%、2022年度春夏学期72.2%）。

**2022年度秋冬学期授業改善アンケート 講義科目
対象科目数・回答数**

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	4	262
	行動系科目	25	325
	社会人間系科目	14	186
	教育系科目	25	466
	共生系科目	13	213
大学院科目	共通科目	9	40
	行動系科目	19	59
	社会人間系科目	9	41
	教育系科目	17	91
	共生系科目	9	34
G30科目		20	165
計		164	1882

回収数 1882 / 受講登録者数 2620 = 回収率 71.8%

- ※1 基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。
- ※2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに 2010 年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

2. 授業改善アンケートの結果

2020-2021年度は、全科目をアンケート実施対象科目とし、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、今回よりすべてマークシート方式に変更した。その結果、2022年度秋冬学期の授業改善アンケート回収率は71.8%となり、2021年度秋冬学期の20.6%から51.2ポイントと大幅に上昇した。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」(1~5の範囲で数値が高いほど高評価を意味する)については、平均が4.36(2021年度秋冬学期4.34)であり、前年度並みに高い値となった。学系別集計によると、大学院科目において「非常に良かった」と回答している学生の割合が74.3%となり、前年度よりも17.5ポイント上昇している点が特徴として挙げられる。大学院科目は、問9「この授業「この授業で学問的知識が身についたと思いますか」についても「強くそう思う」と回答している学生の割合が60.0%となり、唯一50%を越えていることから、専門的知識の修得を求める学生の要望に応えた結果が満足度にも反映していると考えられる。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問1の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が85.0%と高い数値ではあるが、2021年度秋冬学期90.1%よりも5.1ポイント減少している。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン授業が中心であった2021年度の結果と、対面授業やブレンド授業へと徐々に移行してきた2022年度の結果は、単純に比較できない点に留意する必要があるとはいえ、出席率の向上は今後の課題である。問2の「この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは23.4%となり、前年度の30.5%から改善をみせた。この点に関しては、オンライン授業が中心となった2020-2021年度のあいだに授業外学修にかんするさまざまな対策・工夫がなされたことが窺われるとともに、効果が発揮されているといえる。

また、授業内容の難易度を尋ねる問3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」という回答が72.1%(前年度77.6%)、授業内容の理解度を尋ねる問4「授業内容はよく理解できましたか？」に対しては「強くそう思う」が21.3%(前年度22.4%)、「そう思う」が61.6%(前年度57.4%)、授業方法の工夫等を尋ねる問8「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていきましたか？」は「強くそう思う」が37.0%(37.0%)、「そう思う」が53.4%(50.7%)といずれも前年度並みに高い値となっている。このことから、授業で扱う題材選定の適切さや、授業の進行形式の改善が、問9の学問的知識の習得および問10の満足度の向上に寄与しているといえる。

以下より、2021年度秋冬学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

※学系別集計については以下のように集計している。

- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。

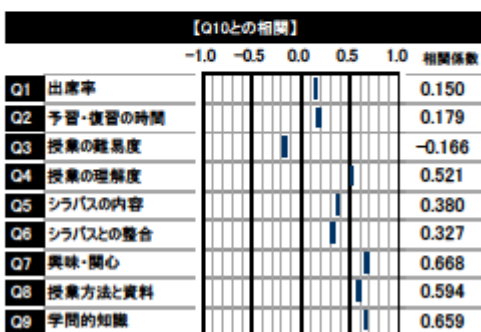
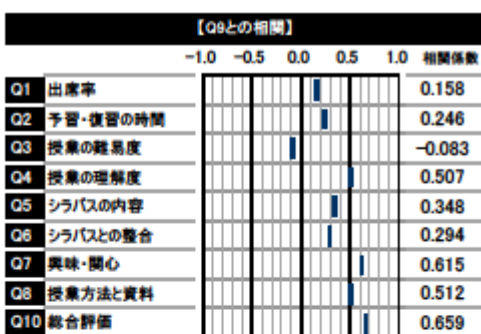
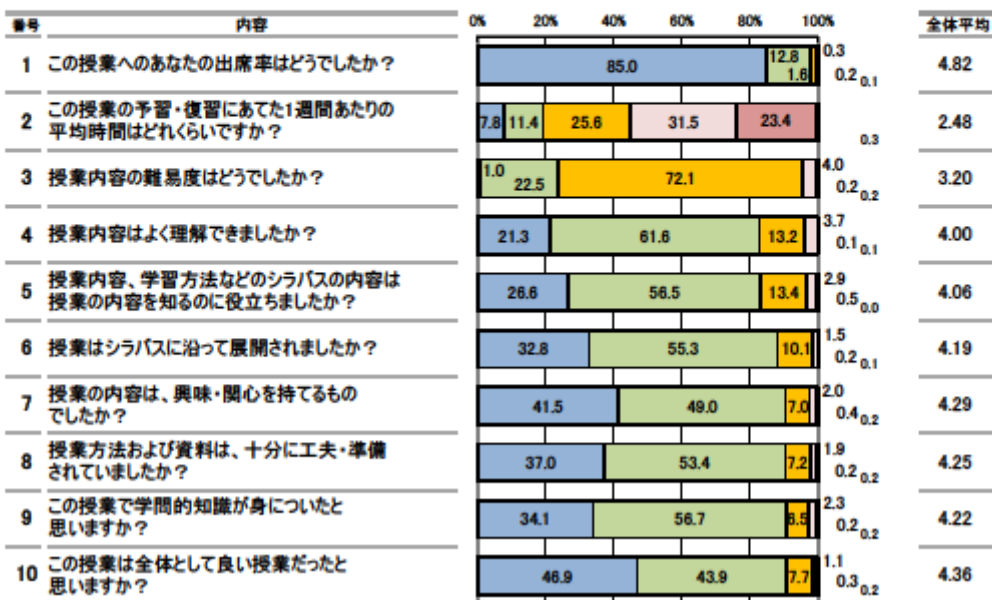
大阪大学人間科学部・人間科学研究科

- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

授業改善アンケート

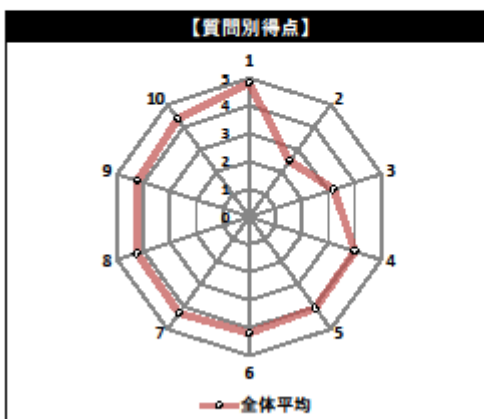
大阪大学 人間科学部・人間科学研究科
2022年度秋学期

全体集計	履修者数	2620
	回答数	1882
	回答率	71.8%



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しい	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明 (無回答を含む)
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも書えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	良かった	普通	あまり良かった	良かった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目とも関係が深いのか、授業の何を改善すればよいかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例:回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)

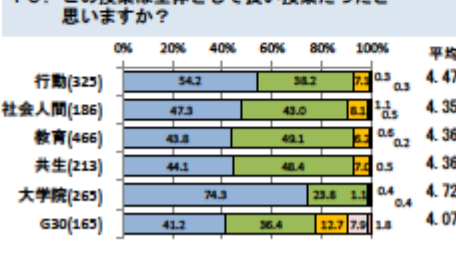
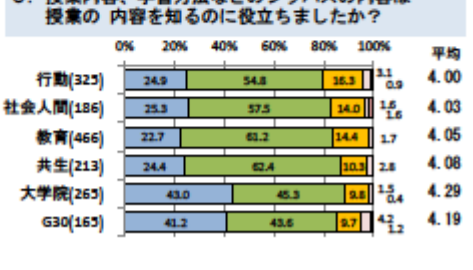
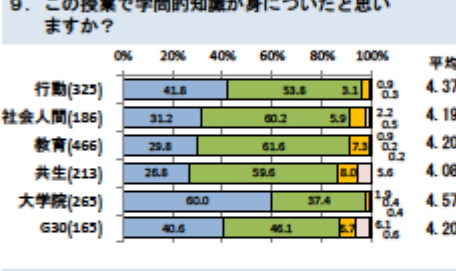
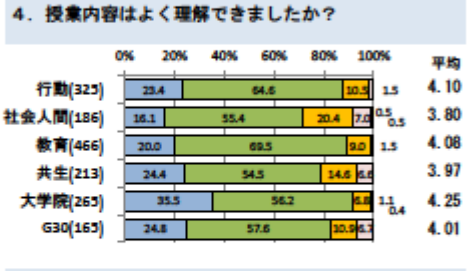
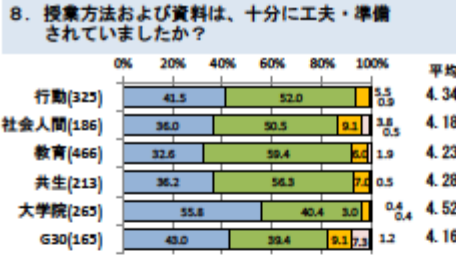
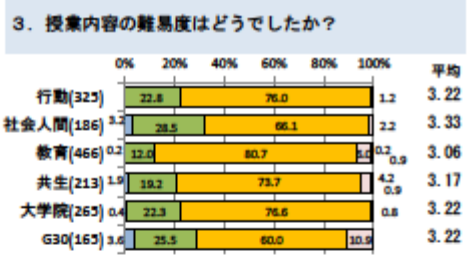
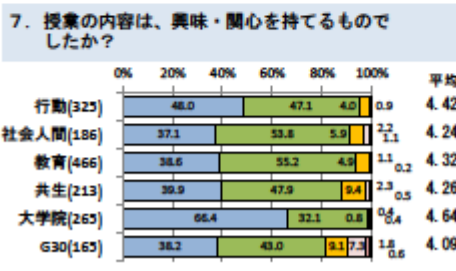
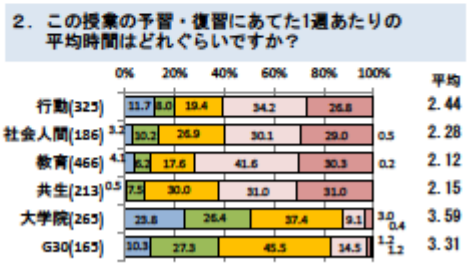
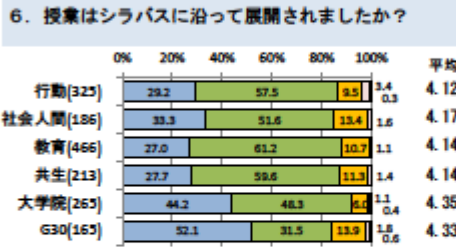
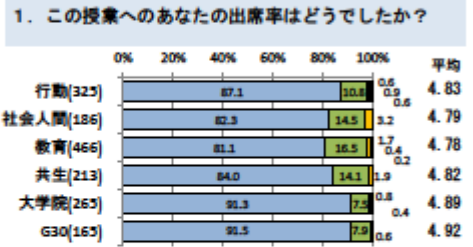


大阪大学 人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート 2022年度秋学期

学系別集計【全体】

※グラフ内数字は回答率（%）

回答凡例	5	4	3	2	1	-
質問1	30%以上	30~30%	40~50%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	回答しなさい	
質問3	満足する	やや満足	適切	やや満足しない	満足しない	不明(無回答含む)
質問4~8	強く良かった	やや良かった	どちらとも言えない	やや悪かった	悪かった	
質問10	非常に良かった	良かった	普通	悪かった	非常に悪かった	



＜満足度上位の科目＞

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 164 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 49 科目であり、平均値 4.36 を上回ったのは 23 科目であった。

2022 年度秋冬学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	比較行動学	13	5.00
2	共生学実験実習 I	22	4.73
2	文明動態学	22	4.73
4	教育人間学演習 II	10	4.70
5	Special Topic in Human Sciences IVA (Talking Point in Psychology)	12	4.67
6	人間行動学実験実習(心理的アセスメント)	17	4.65
7	共生の技法	35	4.60
7	共生社会論演習	10	4.60
9	教育人間学	22	4.59
10	基礎心理学(知覚・認知心理学)	48	4.58
10	安全行動学	43	4.58

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	国際協力学特講 I	12	4.92
2	教育分野に関する理論と支援の展開	10	4.71
3	学校社会学特講	14	4.64
4	人間科学方法演習	14	4.58

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

【行動学系】

入戸野 宏

学部の演習については、できるだけ学生の関心をくみ取り、幅広い視点から多角的に議論するように試みた。少人数による対面授業のメリットを生かすことができた。

三浦 麻子

社会・集団・家族心理学では対面/Zoom ライブ+録画を併用しましたが、概して対面の参加率が高かったです。講義中は Slido で随時質問を受けつけて、即時対応 or 翌週以降の授業内容に反映させるようにしましたが、今年は昨年までよりもやや質問が少なめでした。単に知識を頭に入れるだけではなく、そこから発展的な思考に結びつけてほしいので、もう少し工夫を考えてみたいです。

鹿子木 康弘

演習系の授業では、想定内の評価を得ることができた。

今年度から、講義系の授業では、コメントに対するフィードバックに多くの時間を割いている点を改善し、少なくしたが、特に問題がなかったように思われる。

また、難易度に関しては、適切という意見が多かったため、適切なレベルだったと思われる。しかし、予習と復習に関する時間が少ないので、そのあたりを充足させるために、もう少し課題に比重を置いてもよいかと思うが、逆に学生の負担となることもあるので、そのあたりはうまく調整しないといけないと感じた。

中井 宏

安全行動学（時間割コード 10631）について

成績評価のための中間課題（配点は 30 点）は、年明け〆切だったが早めに取りかかれるよう第 1 週から課題内容を説明し、課題見本なども CLE にアップしていたが、授業外学習の時間が予想外に少なかった。もの凄く熱心に取り組んでくれ 30 点以上を付けたくなるような子もいれば、僅かな労力しか掛けてなさそうな子もいたため、次年度はこの課題の重要度を強調したい。

全体への感想

現状の集計方法は、回答学生の所属学科目・系ごとにまとめられていますが、他系の学生から「行動学系の授業は難しいので、あまり履修していない」との声を聞くことがあるので、科目を学科目・系別に見られたら面白いのかなと思います（集計作業が大変になるなら、そこまでしていただかなくて大丈夫です）。

また演習科目の回答者数が、社会・人間や共生は 12 名しかおらず、学科目によって授業改善アンケートへの協力度合いが大きく違うのかなと感じました。

山田 一憲

集計結果を見ると、全体として、授業のねらいは伝わっていると判断しました。自由回答項目に回答がもらえるような授業にしたいと思いました。

山本 倫生

一度講義や演習を受講しただけでは統計学の理論的な部分まですべてを理解することは困難ですが、受講者は各自でしっかりと取り組み、授業内容を習得していたように思います。今後学習を継続することでさらに理解を深めていくことを期待しています。

森川 和則

基礎心理学（知覚・認知心理学）：履修者60人中48人が回答して、全体的に高評価でした。特に質問7～10は明らかに平均値を上回っていましたので、学生の満足度は高かったと思われます。来年度もこの調子を維持したいです。

基礎心理学特定演習・特別演習：履修者全員（4人）が回答して、質問7～10は最高評価をいただきましたので、院生の満足度は高かったと思われます。最後に実施した英語執筆添削は特に皆さんの役に立ったように思います。

足立 浩平

数理系の学問は難解さを伴うため、すべてを把握するのは難しいです。そこで、「この部分はわからなくても構わない」という判断が大切で、大雑把にエッセンスを把握することに努めてください。

篠原 一光

演習科目については例年とさほど評価に違いは見られず、大きな問題は認められなかったため、今後も同様の内容を継続したいと考える。なお、講義科目についてアンケートが実施できなかったため、来年度は昨年のアンケート結果を踏まえた改善に努めたい。

青野 正二

今年度秋・冬学期に担当した環境評価論の授業は一部を除き対面で実施した。提出された期末レポートについては受講生間でそれほど大きな開きは見られなかったことから、本授業全体を通して、理解度にもそれほど大きな差はなかったと考えられる。ただし、授業内容によっては、受講生にとって難解なところもあったようである。その要因の一つとして、1年次に配当されている解析学入門（選択科目）の受講者数が、近年減少傾向にあることが挙げられる。すなわちこの科目の履修の有無によって、一部の授業内容の理解度にも大きな違いが出ているかもしれない。この点については、来年度、本授業において少しでも補完するような工夫を考えてみたい。

【社会学・人間学系】

福岡 まどか

今学期は講義と講読を組み合わせました。次回もこのスタイルを続けながら、もう少し文献講読の機会を多くしていきたいと思っております。

野尻 英一

アンケートへのご協力ありがとうございました。授業改善に活かしてまいりたいと思います。特に授業中でもご指摘をいただいた、科目履修の登録システム、シラバス、CLE の使いにくさ、わかりにくさは、時代遅れの状況が生じており、喫緊の課題だと認識しております。こちらは教務委員会での課題として取り組んでまいりたい所存です。

【教育学系】

管生 聖子

資料のアップロードやオンラインの併用など受講生が有効活用してくれていたようで良かったです。オムニバスの授業なので、アンケートへの回答も難しかったと思いますが回答くださった方、ありがとうございました。

野坂 祐子

どの科目も、熱心に受講されており、よかったです。ワークなども積極的に参加してもらえたので、学びが深められたことと思います。「予習・復習」は、こちらからは具体的に指定しませんが、授業のなかで関心をもてたことや気になったことは、積極的に自己学習で取り組んでもらえることを期待します。

西森 年寿

講義（教育工学1）の総合満足度は下がりました。マークシートに戻ったので偏らず全体の意見が聞けるようになった部分はあったかなと思います。このほか、今年は業務の関係で、授業準備にさける時間が相対的に減ってしまったので、それが反映された結果でもあるかな、受講生には申し訳ないな、という気持ちもあります。カリキュラムの再設計のため、教育工学1は来年から模様替えますので、心機一転、がんばりたいと思います。

荒牧 草平

皆さんの回答を参考に、授業改善に努めたいと思います。

高田 一宏

実習系や文献講読の授業の参加意識・行動は、講義形式の授業よりも高いように思われるが、受講者が少ない（数人～10数人）ので数値的な評価はできない。

佐々木 淳

臨床心理学概論にコメントをいただきありがとうございます。例年よりもかなり回答率がよくありがたいです。来年度は新たな構成でお届けしようと思っておりますが、アンケート結果がその参考になりました。

阿部 望

皆さま授業アンケートへのご協力、ありがとうございました。

・感情・人格心理学（理論と実践）

本講義は今年度が初開講でしたが、回収率も高く、概ね全体平均と同程度の肯定的な評価を得ることができていた点は良かったと思います。

グループワークで他者と意見交換ができた点を評価してくださっている回答もあったため、今後もそのような機会を積極的に取り入れるとともに、より満足度の高い講義となるよう、授業改善に努めたいと思います。

・臨床教育学実験実習Ⅲ（心理学研究法）

予習・復習に多くの時間を割いてくださっており、皆さん熱心に取り組まれていたと思います。理解度や満足度も高かったようで良かったです。

ただ、難易度についてはやや難しいと感じている学生もいたため、その点は今後改善していきたいと思います。

岡部 美香

アンケートにご回答いただき、ありがとうございます。これからも、受講生全員が理解でき、受講して意味があると思ってもらえるように、授業の内容などを工夫していきたいと思っております。よろしく申し上げます。

老松 克博

わが国の文化、とくに宗教的な側面について、かなりのスローペースで細かく説明したつもりですが、内容が難しかったというご意見が思った以上に多かったです。参考にさせていただき、今後の改善に役立てたいと思います。ただ、20～30年前であれば、多くの人が生活のなかで当たり前に経験し、知っていたはずのことが、これほど急速に忘れられていることには、正直、心穏やかでいられません。人の心に寄り添うにあたってたいせつなことばかりをお伝えしたつもりですので、そういう方面に少しでも関心をもっていただけたらうれしいです。

木村 涼子

興味関心を持てる内容を、適切な難易度で扱うことの重要性をあらためて感じました。次年度に向けて改善を志したいと思います。

野村 晴夫

概ね及第点のようですが、予習復習の充実など、今後の改善を図ります。

【共生学系】

千葉 泉

学生との間のコミュニケーションをさらに改善し、授業に関する彼らの意見や希望、アイデアを積極的に把握しつつ、迅速にフィードバックを行うことで、より受講生のニーズに対応した授業の構築に努めます。

檜垣 立哉

全体的に満足という回答が多かったのによかったかとおもう。私自身は大阪大学は今年で終わりになりますが、来年半期、院生のみ非常勤授業があり、講義についてはもう関係ない立場であるが、院生教育については引き続き工夫をこらしていきたい。

澤村 信英

国際協力に関心をもって、授業に参加してくれたことは教員としてうれしいことである。国際協力の現場の（時として理不尽とも思える）リアリティと様々な現象を正しく解釈する難しさを授業内容に盛り込むようにしたが、そのあたりの理論（政策や政府のステートメント）と実際のギャップが常にあることを理解してくれたことからすれば、授業の目的は達せられたと思う。予習・復習にあてた時間が少なめなのは、意図した一面もある。授業という限られた内容だけから国際協力を捉えるのではなく、社会の中で必要な時に必要なことを自ら学ぶ方法を身に付けてほしいと考えた。

稲場 圭信

毎回のコメントシートへのフィードバックが大変よかったようなので、今後も続けます。自分以外の学生の考えも知ることが大切と考えています。多様な社会の取り組みについても関心を持ってもらえたようで、今後も工夫します。授業のパワーポイントを配布して欲しいという声もありましたが、学生の皆さんのノートを取る力の向上のためにも今後も資料配布はしません。事前学習にもう少し取り組めるように工夫します。

渥美 公秀

コミュニティラーニングについて：現地での臨機応変な対応は結果的に幸いであったが、新しい要素（今回は宿泊場所）を採り入れる際には、事前の情報把握をもう少し時間をかけて行っておく必要を感じた。当たり前のことではあるが、来年度以降、改めて検討していきたい。

宮本 匠

予習や復習等は授業中に参考図書を紹介する程度で、特に具体的にお願ひすることはなかったが、受講生の授業への意欲や学びが深まるような形の予習や復習があるとすればどのようなものか模索してみたいと思います。

【その他（学系外）】

* 評価資料室

米田 翼

【現代人間学演習Ⅱ】授業の(7)内容・(8)方法・(9)知識の習得度に関する項目、また(10)授業全体の評価は、科目得点 5.0 点と非常に評価が高かったが、他方で(3)難易度や(4)理解度は 3.5 点と 4.0 点であり、平均以上ではあるものの、やや低い結果となった。こうした内容面と習熟度とのギャップは、おそらく演習で扱った文献やトピックに関する受講生間のもともとの知識量の差によるものと思われる。実際、演習中にも議論についていけない受講生がいないかは重々配慮したつもりであったが、授業後に個別に質問に来るケースが多かったため、次年度からは毎回コメントシートを配るなどの工夫をし、理解度を把握しながら授業を進めるよう努めたい。

* 公認心理師プログラム運営室

平井 啓

「心の健康教育の理論と実践」では、心の健康をテーマとした PBL 型の授業展開を行っている。本年度は、来年度に摂津市で開業する小児科医から地域の小児科における心理的支援に関する課題を 3 つ（きょうだい支援、父親の子育て支援、発達障害）提示してもらい、さらに 2 つの課題（大学での自殺対策、母親のストレスチェック）の 5 つについて 5 グループでソリューションのプロトタイプ（Web サイト、あるいは Web サービス）を作成した。次年度についても、実際のステークホルダーから課題を提供してもらうような授業展開を予定している。